事業名　多良間村自然文化継承事業 『郷土資料整理活用業務』
(H30年度)

資料概要

※H30年度事業において翻刻・
現代語訳作業をおこなった資料
についての概要説明ページです。

資料概要

H30年度多良間村自然文化継承事業 『郷土資料整理活用業務』

〈家譜資料〉
浦渡氏　向脩氏　土原氏

〈往復文書資料〉
多良間往復文書控

〈総頭帳資料〉
仲筋村子年惣頭帳
塩川村丑年惣頭帳

〈組踊り資料〉
忠孝婦人村原組
手水の縁(写本)

#2-1　浦渡氏系図家譜
支流(宮城家)

#2-4　向脩氏系図家譜
正統(佐和田家)

#2-5　向脩氏系圖家譜
支流

#2-8　土原氏系図家譜
支流(親里家)

#2-13　多良間往復文書控(一)

#2-14　仲筋村子年惣頭帳

#2-15　塩川村丑年惣頭帳

#2-17　忠孝婦人村原組

#2-20　手水の縁(写本)

資料概要

#2-1　浦渡氏系図家譜　支流(宮城家)

★作成年代： 18 世紀前半-20 世紀初頭
★『浦渡氏系図家譜支流（宮城家）』は、多良間船筑常基から数えて４代目となる塩川目指常守の次男で仲筋仁也常業を系祖として作成された家譜である。
　史料の表題下には「仲筋〔以下欠落〕」とあり、前半は和系格による系図、後半は各個人の記事などを収録した家譜によって構成される。
　系図には常業から続く男性・女性の名前および生没の日時などが付され、家譜には男性の生没年や元服した年、就任した役職などが列挙される。
　記事は順治14（1657）年生まれで系祖とされた仲筋仁也常業から生年未記載（明治41 年ヵ）の常栄までを収録されている。

最初のページへ

資料概要

#2-4　向脩氏系図家譜　正統(佐和田家)

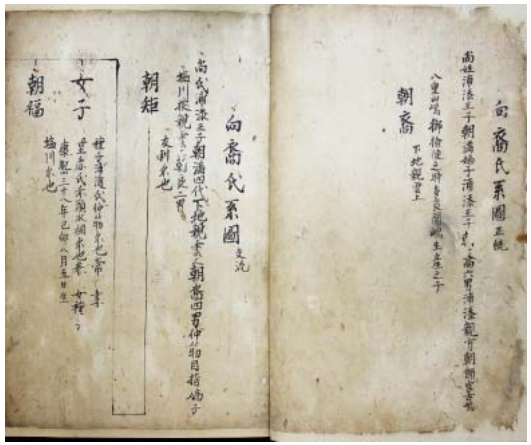
★表題および内題に「向脩氏系圖家譜 正統 故久貝目差朝住」とある。
　前半は和系格の系図、後半は個人の記事からなる。系図部分は、男性には元服後の名前と位階名・童名などが、女性には名前、嫁ぎ先、母方祖父の情報、生没年などが記されている。一部の項目には黒丸印が捺され、朱での訂正も確認できる。また、系図の最後部には、近代以降に追記したと思われる書き込みもみられる。

　家譜後半の記事部分は、萬暦29（1601）に生まれた「下地親雲上朝脩」から光緒11（1885）年生まれの「朝祥」までの男性のみの記録で構成されている。それぞれ、まず位階と元服後の名前、童名、父母の情報、生年月日がある。
　つづいて、王代ごとに、元服を示す「片髪」を結うといった儀礼に関する記事や、多良間島での公務に関する記事、宮古島などへの出張に関する記事、死亡年月日など、個人の業績や履歴が列挙されている。なかには、実際に発給された公文書の写しも引用されている。その内容は、飢饉時に食料を供出したことや、年貢を皆納したこと、困難な航海を果たしたことなどに対する王府からの褒賞記事、家督相続の申請書、公務に関する報告書、離婚の報告書などがある。

最初のページへ

資料概要

#2-5　向脩氏系圖家譜 支流



★ 表題に「向脩氏系圖家譜 支流」とあり、その下部にペン書きで「並里（花城）」とある。全体を通して印影が見られれないため、複写された可能性もある。史料の前半は和系格の系図、後半は個人の記事からなっている。

　系図部分は、男性には元服後の名前と位階名・童名などが、女性には名前、嫁ぎ先、母方祖父の情報、生没年などが記されている。また、系図の最後部には、近代以降に追記したと思われる書き込みもみられる。

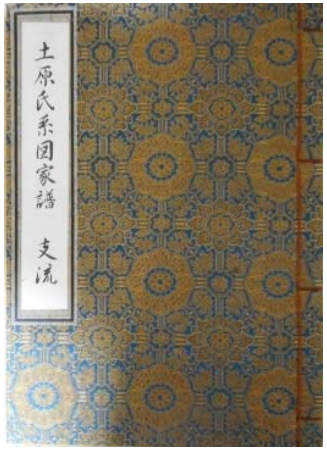
　家譜後半の記事部分は、萬暦29（1601）年生まれで、朝脩の子である「朝平 仲筋目差」から同治２（1863）年生まれで童名が「蒲」、名乗り「朝口」（口は不明）までの記事が収録されている。

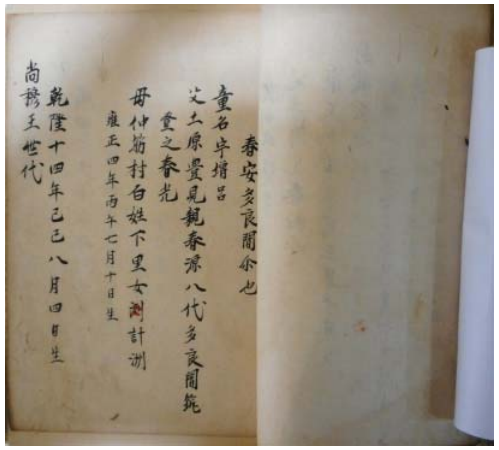
　また、後半部に「沖縄縣宮古郡多良間島仲筋村拾番地士族農業花城朝順」という記載もみられ、近代以降に追記された情報も確認できる。記事は、男性一人につき、位階と元服後の名前、童名、父母の情報、生年月日が書かれている。つづいて、王代ごとに、元服に関する記事や、多良間島での公務に関する記事といった個人の業績や履歴が列挙されている。また、家督相続の申請書も収録されている。

最初のページへ

資料概要

#2-8　土原氏系図家譜　支流(親里家)



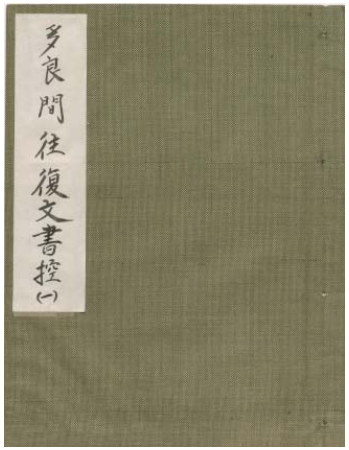


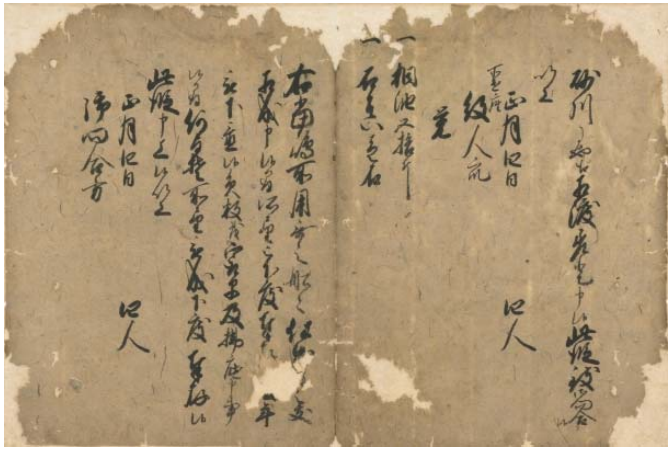
★作成年代：18 世紀前半-19 世紀後半
★『土原氏系図家譜支流（親里家）』は、土原豊見親から数えて５代目となる多良間首里大屋子春良の次男で水納目指春徳を系祖として作成された家譜である。
　史料の表題下には「仲筋村前久原之／多良間筑登之」とあり、前半は和系格による系図、後半は各個人の記事などを収録した家譜によって構成される。
　系図には春良から続く男性・女性の名前および生没の日時などが付され、家譜には男性の生没年や元服した年、就任した役職などが列挙される。
　記事は万暦37（1609）年生まれで系祖とされた水納目指春徳から光緒７（1881）年生まれの砂川仁也春口までを収録している。

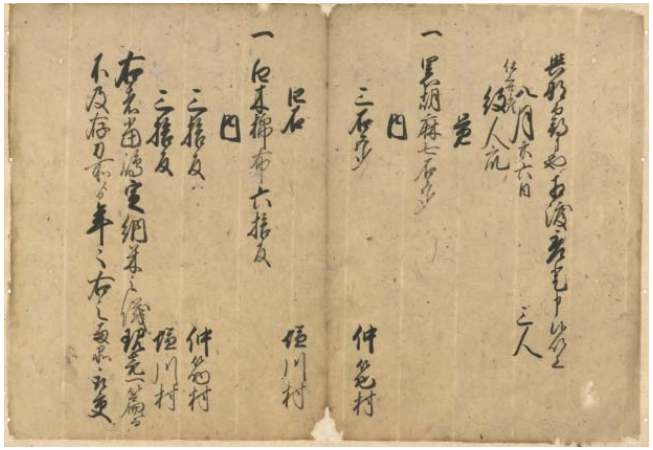
最初のページへ

資料概要

#2-13　多良間往復文書控(一)





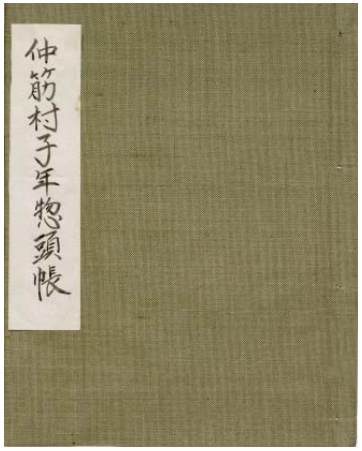


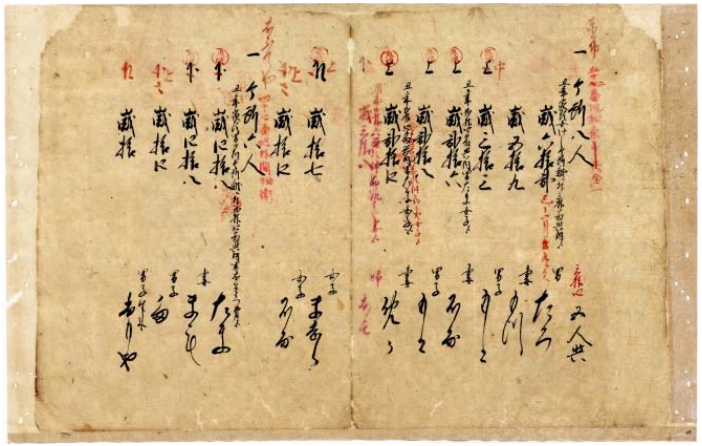
★作成年代：1832年（道光12）～1844年（道光24）
★作者：多良間島番所詰め役人
★本史料は、多良間島番所と宮古島蔵元との往復文書である。
　多種多様な内容となっているが、およそ
①年貢そのものに関する事項（定納布・粟・牛皮・アダン葉莚）
②特別注文品（薩摩から紫檀・鉄刀木の注文など）　③多良間島と水納島への流人関係
④島政・島民生活全般の問題　⑤手札御改め料関係　⑥船舶の修理関係
⑦八重山運漕馬艦船の難破問題　⑧年貢運送船の船頭証文関係　などである。

最初のページへ

資料概要

#2-14　仲筋村子年惣頭帳



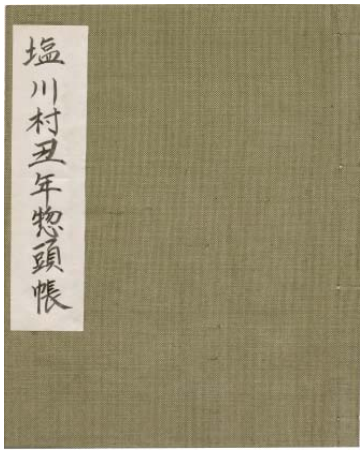


★作成年代： 1877（明治10・光緒３）年丁丑12 月
★作者：水納目差武富仁屋と塩川与人
★『多良間島塩川村丑年惣頭帳』は、多良間島塩川村の光緒３年丑年の惣頭つまり総ての人の家族構成人数・歳（年齢）・続柄・名前等を五人與ごとに記録し、前半の壱番與から拾九番與までを系持とし、弐拾番與から四拾壱番與までを百姓に区分して、物成つまり租税を徴収するために作成した帳簿である。
　総合計は1,532 人で、男732 人・女800 人である。次の帳簿が明治21 年の子年に作成されているので、それまで使用された。

最初のページへ

資料概要

#2-15　塩川村丑年惣頭帳



★作成年代： 1888（明治21）年戊子
★作者：欠落により不明
★『多良間島仲筋村子年惣頭帳』は、多良間島仲筋村の明治21 年子年の惣頭つまり総ての人の家族構成人数・歳（年齢）・続柄・名前等を五人與ごとに記録し、前半の壱番與から弐拾壱番與までを士族とし、弐拾弐番與から三拾五番與までを平民に区分して、租税を徴収するために作成した帳簿である。前半の壱番與から拾壱番與の途中までが欠落し、弐拾八番與から弐拾九番與も欠落、最後も欠落しているので総合計は不明である。
　多良間島も明治13 年には戸籍が作成されているが、宮古島の蔵元にあったため、惣頭帳が戸籍簿の役目もになった。死亡した者は、「寅ノ十一月十一日欠」と死亡年月日が朱書きされている。明治37 年まで朱書があることから、それまで使用されたものと思われる。

最初のページへ

資料概要

#2-17　忠孝婦人村原組

★作成年代：琉球王国時代末期（筆写年代不明）
★作者：久手堅親雲上
★この組踊作品は嘉慶5（1800）年に行われた尚温冊封に供するために創作された作品である。
　この年に行われた冊封では前年、乾隆帝が崩御したため芸能が大宴で供されていないが、本作品はこれ以降行われる冊封の宴に必ず供される作品である。筆写年は不明であるが、詞章の前に各登場人物の「着付」が記されており、現存する組踊写本の中でも極めて貴重な資料である。
　「着付」の内容は道光18（1838）年に行われた尚育冊封の芸能記録（『校註 琉球戯曲集』）のものとほぼ一致している。
　なお、本資料について當間一郎氏は『多良間村史 第五巻資料編４ 芸能』において『校註 琉球戯曲集』と本資料の一部を比較し、「台本としては思ったほど出入りがないと言えるのではないか」としているが、「着付」および内容について尚家資料『組躍』のものとは少々の異同が見られるため、道光18 年の資料とほぼ同じものではなく、創作された嘉慶5 年から道光年間の間に書写された資料と仮定したい。

最初のページへ

資料概要

#2-20　手水の縁(写本)

★作成年代：道光28（1848）年
★作者：（伝）平敷屋朝敏
★この組踊作品は平敷屋朝敏の作と伝わっているが、研究者間でいくつか論があり、創作年代などが比定されていない。忠孝を説いた組踊の中で数少ない恋愛物の作品である。本作は「花城金松」「仲村渠真嘉戸」などの恋愛物の組踊および、近代以降に創作される沖縄芝居、琉球歌劇などに大きな影響を及ぼした名作である。首里王府の資料では、平敷屋朝敏の生きた1700 年代に上演された記録は見られず、同治５（1866）年の最後の冊封となった尚泰冊封における、那覇躍奉行の資料とみられる『丙寅冊封那覇演戯故事』に「手水佳偶契如日月」という「手水の縁」の漢訳が見られるため、この年には上演されたことがうかがえる作品である。
　本資料は道光28 年の筆写であり、現存する「手水の縁」の資料の中で最古のものである。また、現在上演されることの多い『校註 琉球戯曲集』所収の「手水の縁」と役名が異なる部分、詞章が異なる部分が見られるため、今後、研究の余地がある貴重な資料である。資料の後半部分が残欠となっているが、最終場面以外の詞章、歌詞が残されているため、極めて貴重な資料と言える。

最初のページへ